横須賀市自然・人文博物館付属　馬堀自然教育園／天神島臨海自然教育園

自然教育園だより

しぜんきょういくえんだより

Vol.6 No. 2
(2013 年 夏号)
2013 年 7 月 12 日 発行
横須賀市自然・人文博物館
046-824-3688

チョウチョウウオ（天神島臨海自然教育園）

トゲチョウチョウウオ

天神島臨海自然教育園の沿岸には毎年夏になると南方から黒潮にのって熱帯・亜熱帯性の魚類がやってきますが、その代表といえるのがチョウチョウウオ類です。例年７月頃から浅い岩礁や潮だまりの岩かげを出入りする体長１～２cmの幼魚を見かけるようになり、晩秋には体長５cm以上に成長するものもあります。しかし、ほとんどの種類は冬の寒さで死んでしまい、越冬することのあるチョウチョウウオでも繁殖可能な成魚にはなれません。

タマゴタケ（馬堀自然教育園）

真っ白で卵型の幼菌から名がつきました。傘は真っ赤で柄はオレンジ色で赤いまだら模様があり、とても派手なキノコです。柄の元につぼがあり、上部にはつばがあることからテングタケの仲間であることが分かります。テングタケ科のきのこは毒キノコが多いですが、このタマゴタケは食用となりしかもおいしいキノコです。三浦半島ではシイ・カシ林やコナラ林などに夏または秋にあらわれ、同一円周上に並んで生える菌輪（きんりん）が見られることがあります。

馬堀のみどころ（7~10月）

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

サワガニの親子（9月）

カブトムシ（7月）

ナラタケ（10月）

スダジイやタブノキ、マテバシイなどの照葉樹も新葉を伸ばし終え、緑陰が濃くなる真夏には、林床でコクランや無葉緑植物のタシロランなどが咲き、梅雨の終わりごろには、秋と同じく、タマゴタケやシロオニタケなど多くのきのこがあらわれます。水路に沿ってオニヤンマ、オオシオカラトンボなどが飛び交うのもこの季節です。

ヒバカリ（7ー10月）

ミスジマイマイ（9月）

オオシオカラトンボ（7月）

ヤマユリ（7月）

タシロラン（7月）

タンザワフキバッタ（8月）

ナガゴマフカミキリ（7月）

クサギ（10月）

ウラギンシジミ（7月）

天神島のみどころ（7~10月）

夏には多彩な海岸植物が花期を迎えます。7月のスカシユリに始まり、ハマナデシコ、8月に最盛期となるハマオモト、ハマボウ、ハマゴウ、秋口にはハマカンゾウ、ネコノシタ、ハチジョウナとにぎわいます。これらの花々を訪れる多くの昆虫も見逃せません。海をのぞくと、カニ類や貝類だけでなく、色とりどりの熱帯性の魚なども見られます。楽しみの多い磯観察ですが、打ち上げられたカツオノエボシや最近話題のヒョウモンダコなど有毒な生き物にはご注意ください。

スカシユリ（7月）

アンドンクラゲ（9月）

ラミーカミキリ（7月）

ハマゴウ（8月）

ウミネコ（8月）

ソラスズメダイ（9月）

ハマカンゾウ（8月）

ハマボウ（7－8月）

ヒョウタンゴミムシ（8月）

ギンカクラゲ（8月）

オヤビッチャ（6－12月）

自然教育園の行事案内

今年度の行事についての詳細はリーフレット等をご覧ください

潮だまりの生き物

平成 24 年 8 月 2 日、天神島臨海自然教育園で自然観察会「潮だまりの生き物」を開催しました。天然の水族館ともいわれる潮だまりでくらす生き物を観察する行事です。参加者 14 名とともに美しいチョウチョウウオやスズメダイ類、アオウミウシなどのほか、海藻を身にまとってカムフラージュするため大変見つけにくいイソクズガニやコワタクズガニなど約 50 種の生き物を見つけることができ、潮だまりの生き物の多様性にふれることができました。

イソクズガニ

夜の昆虫かんさつ

昼間は見られない虫たちの生態を観察する行事で，平成24年8月3日と4日に合計53名が参加しました。日没前の明るいうちに海岸に出て，夜の下見をかねた虫探しをしました。草地ではショウリョウバッタがたくさん見つかり，夜に備えて林のそばにトラップを仕掛けました。日が沈んだら再び外へ。暗闇の中で光で虫を集めるトラップには，コガネムシの仲間などが飛んできました。砂浜では昼間もぐっていたヒョウタンゴミムシやハマダンゴムシなどが歩き回っていました。

◎ 2013 年度は 8 月 2 日と 3 日の 17 時～ 20 時 30 分に予定しています (事前申込が必要です)。

2012 年夏の観察会のようす

自然教育園のできごと

天神島臨海自然教育園のトイレを撤去

1966（昭和 41）年開園以来使われてきた教育園内のトイレが老朽化と自然保全のため、平成 25 年 2 ～ 4 月に撤去されました。跡地は、柵などを整備し、海岸林の観察や休憩の場として利用される予定です。

いつまでいるの？　今年の旅鳥

5 月初旬は、南半球を旅立って、日本を中継地点にさらに北上し、北半球の北部で子育てをする鳥たちの移動の時期でもあります。これらは旅鳥と呼ばれ、シギ、チドリの仲間に多く、天神島でも数種類が 4 月下旬から飛来し、 5 月下旬頃までに旅立っていき、9 月～ 10 月に越冬のための南下のときにふたたびあらわれます。ところが今年は 6 月中旬から下旬にかけてチュウシャクシギが見られました。子育てをしない若い個体だったのか、繁殖を終えた親子だったのかわかりませんでした。ともあれ、今までこの時期の記録はなかったので今後に注目です。

チュウシャクシギ

笠島の植物調査と整備

平成 25 年 3 月 28 日、植物調査と島内整備のため、笠島に上陸し、イソギク、ハマエンドウなどの海岸植物の生育状況などを確認しました。ヨーロッパ原産の帰化植物ウシオハナツメクサが笠島では初めて記録されました。

ウシオハナツメクサ

今年は早かった！　南方系のお魚

夏が近づいてくると、死滅海遊魚と呼ばれ、寒い天神島の冬を越すことのできない南方系の魚の幼魚がやってきます。例年は 6 月中旬以降に観察されていましたが、今年はシマスズメダイが 5 月 13 日に見られました。この 4 年で一番早い記録です。ちょうどその時期に相模湾が黒潮の影響を強く受けていて、海水温も高くなっていました。今年の夏は他にどんな魚が見られるか、注目してはいかがでしょうか？

横須賀市自然・人文博物館と付属自然教育園のお問合せ
博物館（本館）：　横須賀市深田台 95　電話 046 (824) 3688　Fax. 046 (824) 3658
天神島臨海自然教育園・ビジターセンター：　横須賀市佐島 3-7-2　電話 (Fax.) 046 (856) 0717
馬堀自然教育園：　横須賀市馬堀町 4-10-3　電話 (Fax.) 046 (841) 5727
◎博物館や教育園の情報や「教育園だより」は下記ホームページでもご覧いただけます
http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp